

# ダイバーシティ担当 菊池理事が行く！ 学部長・機構長インタビュー — 農学部 編 —



宮口学部長

各学部の男女共同参画状況や課題、ダイバーシティ推進室への期待や要望について、令和4年11月にダイバーシティ推進担当菊池理事とダイバーシティ推進室室員から、農学部の宮口学部長とダイバーシティ推進委員の浅木先生へのインタビューを実施しました。



浅木先生  
(ダイバーシティ推進委員)



## 農学部のダイバーシティ

農業の現場は、情報系の企業など、他分野の業界が次々と入ってきています。また、農業関係の企業は、そういった違う業界の企業と連携して様々なことをしています。いろんな多様性があるって、「こうでないといけない」というものはないなって感じますね。そういう面では性別問わず、年齢問わず、いろんな人が農業や農学を学ぶというのは面白いだろうなって思います。

農学部って意外に他の学部ともつながるんですよ。人文社会科学部とは「地域」づくりの面で関わるし、理学部は「基礎科学」が繋がっているし、工学部は「スマート農業」や「食品加工」があると繋がってくるし、教育学部は「食育」や「食と健康」などがあるんですよ。

「食」がいろんな面で大事だという話をできるというか、いろんな学部と連携できるんです。その辺でもうちょっと具体的に連携できないものかと思うところがあります。

— 学びの場としてダイバーシティ\*1に溢れていて、他学部  
に比べれば外国人留学生も多いですね。学外へもiOPなど  
で農家に行ったりと様々な経験ができますね。

農家さんのところには、外国人技能実習生がいる場合もありますが、彼らは日本語の訓練はされていても、日本での生活の仕方を伝えないとけない。国外に行くだけでなく、意外にも国内で多文化を農業を通じて知ることができますね。



## 女子学生が増えてきた背景と女性教員の状況

### ー その背景は何だと思えますか？

学科名が変わったんですね。そこから加速したのかもしれませんが。昔は「食」という言葉がついた学科はなかったんですよ。少なくとも私の所属する食生命科学科は、一気に増えていきました。

### ー 農学部の教員の男女比というのは現状どのくらいなのでしょう？

女性教員は5名です。もう少し増やさないかと思ひ、募集をかけていますが難しい分野もあります。

### ー 全体的に増やすことは難しい状況ですが、女性教員を増やす方法やイメージはありますか？

高校生になって急に「理系」「文系」ではなく、小学生や中学生とかのときに理系的な要素っておもしろいね、と思ってもらわないとだめなんですね。私の家がこの辺なので、娘が小さいときにJAXAに連れて行ったら、興味を持ちまして、工学部へ進学してエンジニアになりました。息子も連れて行きましたが、それよりもお菓子づくりに興味を持って、今はパティシエをしています。「男だから」「女だから」というのはないかと、自分の子どもを見ながら思いましたね。

若いうちに様々な情報や経験を受け取れる環境が大事なんですね。

## LGBTQ+について

### ー LGBTQ+に関する基本理念・基本方針及び対応ガイドライン\*2の策定に伴い、LGBTQ+についてお話を伺わせてください。

昔の話ですが、学生を呼ぶときに男性は「君」、女性は「さん」と呼び分けをしていました。このことについて学生から指摘を受けて、「さん」に統一したということがあります。また、トランスジェンダーの学生からすると多目的トイレを使うことに抵抗があるというか、選択肢として無いため、大学のトイレは使わない、というような声も聞きました。大変だろうなと思ひながら、なかなか対応というももできなくて、どうしたらよかったかなと思ひていました。これからはガイドラインに沿って対応や専門的な方に相談ができたりすると、教員も学生も双方にとっていいと思ひますね。

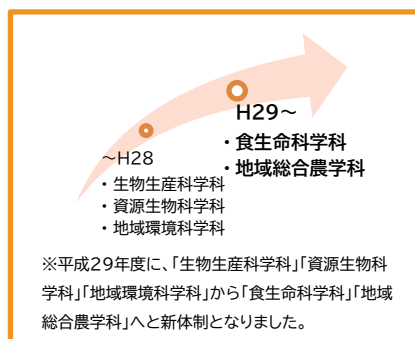
### ー 不自由を感じることなく大学で過ごせるよう、設備の整備や理解の促進が必要ですね。



## ホッとする瞬間

### ー 宮口先生のホッと安心する瞬間はどんな時ですか？

30年近く大学の教員をしています。学生がどんどん意見をはっきり言わなくなっているように感じます。3年生に「質問は？」と問いかけても全然反応がないんです。それが、就活が終わった4年生の中盤くらいから研究室のゼミナールでも積極的に意見を言うようになります。これだと社会に出しても大丈夫だなとすごくホッとしますね。



## 今後について

### ー 今後こうしていきたいというものはありますか？

農学部の建物は、30年が経ち、老朽化しています。それに、大学ができた当時の造りとして男性中心に作られているんです。部屋の有効活用ができていない部分もありますが、今後は様々な学生や先生も含めて集まれる部屋とか、ここに集まる皆さんが居心地のいい空間があるといいのかなと思ひています。

## 浅木先生(ダイバーシティ推進委員) インタビュー

## ダイバーシティ

— 女性の教員が少ない中で、なにか思われていることはありますか？

ダイバーシティはすごく難しいですね。どう位置付けていいのかわからなかったりするんですが、私はなんでもありだと思えます。「女らしい」「男らしい」という人がいてもいいと思うし、「そんなの全然関係ない」という人がいてもいいと思えます。

— 無意識にバイアスがかかって、例えばその空気に合わせて、女っぽくしたりとか、それは息苦しいですね。

そう考えないように「いろんな意見があるんだよ」と示していけたらいいなと思います。ダイバーシティ推進委員会でもそういう流れを作っていたら嬉しいですね。

— まさに私たちがやろうとしていることは、「いろんなものを発信していく」ということです。大学はいろんな学生や、教員、職員が集まる豊かな環境なので、それを実感していく。ニューズレターでいろんな人の話をつなげていきたいなと思っています。



## ホッとする瞬間

— 浅木先生のホッとする瞬間とか自分の中で好きな時間、安心を覚える時間とかありますか？

学会や講演会に参加して発表を聞いたり、学生も教員もいろんな制約がある中で、自分はこうしたいからと研究している姿を見ると、すごいな、と。ドキドキするし、ホッとするというか、自由にはできないこともあるんですけど、現状に甘んじずに頑張らないかなと思います。

— 情報の受け入れ力がすばらしいですね。情報や経験といったものを吸収されて、自分の中で消化して、また生み出されて、そこが常に開かれているということはすごいです。



## 参考情報

- \*1 茨城大学のダイバーシティについて：<https://www.ibaraki.ac.jp/diversity/index.html> (ダイバーシティ推進室HP)
- \*2 LGBTQ+に関する基本理念・基本方針及び対応ガイドライン：[基本理念・基本方針とガイドライン .pdf \(ibaraki.ac.jp\)](#)